

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177622202		
法人名	有限会社 幸慈愛福祉事業振興会		
事業所名	グループホームはまなす石狩		
所在地	石狩市花川北6条1丁目6番地		
自己評価作成日	平成29年2月6日	評価結果市町村受理日	平成29年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0177600202-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシエ研究所
所在地	江別市幸町31番地9
訪問調査日	平成 29 年 2 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桜の名所でのお花見、サクラボ祭り、ブドウ祭りでは職員手作りのお弁当を持って出かけます。それぞれ季節の景色を眺めながらのドライブでは、途中休憩でソフトクリームを食べたり、パンを食べながらコーヒーをいただいたりとその時々楽しみ方をして来ます。
 開設当初から行っている一泊旅行は、入居者と一緒楽しめるコースなどをその年、その年の担当するスタッフが計画しています。
 今年度は昨年と同じく洞爺湖温泉ですが、夕食のバイキングに舌鼓をうった後はタヒチダンスショーや湖に上がる花火を見て、皆さん楽しませていました。
 翌日は昭和新山のクマ牧場を回られ、車いすの入居者をお元氣な入居者がスタッフと一緒に押してくれたり、皆さん笑顔で旅行を楽しませていました。
 入居者さんの中には旅行を楽しみにされている方もいらっしゃいます。今年担当となるスタッフはどんな楽しい計画を立ててくれるのでしょうか？

グループホームはまなす石狩は開設から15年となります。施設長を始め10年以上在籍している職員が多く、利用者、家族と馴染みの関係を築いています。「その人らしい尊厳のある暮らし」の理念に沿ったケアサービスを行い、利用者の活気ある生活の支援に取り組んでいます。
 降雪期には地域住民が事業所周辺の除雪ボランティアとして協力し、職員が町内の合同避難訓練に参加するなど相互交流を行い関係強化に努めています。利用者も町内会の盆踊りや夏祭り、花壇作りなどに参加しています。事業所は医療連携に取り組んでおり、訪問診療、訪問看護の24時間連携体制を強化して、重度化した場合や終末期にも安心して暮らすことができる利用者の終の棲家となるよう、チームケアを行っています。また、四季折々の外出行事も積極的に行っています。特に、毎年恒例の一泊温泉旅行は利用者や家族の楽しみとなっています。歩行困難な利用者でも車いすを利用して戸外に出る事が本人の意欲や自立をにつながっており、職員は支援に努めています。食事は調理専門職員を配置する事で豊かな食事が提供されており、家庭的な団らんの場となっています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は施設内に何力所か掲示し職員がいつでも見られるようにしている。また、朝の申し送り時に確認しあるようにしている。	理念は職員間で改めて見直され、職員のケアサービスの振り返りにつながるよう事業所内の随所に掲示しており、来訪者に向けての広報、啓発にも役立てています。新人研修時には必ず理念を伝え、理解に繋げています。日々の申し送り時でも、職員の意識付けがなされています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域、町内会の行事に積極的に参加し交流を図っている。花壇作り、町内クリーン作戦、町内会避難訓練に参加し交流に努めている。町内会の方々に施設周囲の除排雪をしていただいたりもする。	地域交流が活発で、利用者は町内清掃活動や花壇作り、盆踊りなどに参加しています。冬場には、事業所周辺を地域住民が除雪し、避難訓練にも参加協力を得ています。高校の実習生の受け入れや書道のボランティアの来訪があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター活動で認知症とはどういうものかを知ってもらうよう発信したり、翔陽高校実習生を受け入れたりしている。まちかど介護相談所として介護相談に気軽に来ていただけるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度行われる運営推進会議で、ご家族や町内会長・民生委員、支援センターの方々の意見を聞き、サービスの向上につなげている。入居者のご家族全員に案内を出し、推進会議への参加を呼び掛けている。	家族代表、町内会役員、民生委員、行政関係者などが出席し、2ヶ月毎に開催しています。事業所活動の報告、行事や避難訓練に関する事、運営上の課題などを協議しています。会議録は事業所内に掲示し、家族がいつでも閲覧できるようにしています。開催の案内は全家族に行っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者、福祉課担当者とは常に連携を取りながら協力関係をきずいている。又、グループホームの見学についても、常に受け入れられている。	事業所が市庁舎と隣接しているので、行政からの依頼で事業所見学者を引き受ける事があります。事業所からも運営や利用者、家族に関する事で課題が有る時には、すぐに出向き指導を受けるなど、協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止推進研修会に職員に交代で研修会に参加してもらい、勉強会で感想を発表してもらい、職員全体に理解してもらうよう努めている。又日々の業務の中で、ユニット責任者や管理者が都度指導している。	職員は外部研修に参加し、事業所内で伝達研修を行い、身体拘束にあたる具体的な行為について学んでいます。マニュアルを整備し、職員は身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。不適切なケアがあった場合は、施設長や主任が指導し、再発防止に努めています。玄関は防犯のために夜間のみ施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について、地域ケア会議、職員会議等でふれている。又、実際に制度を利用されている入居者様がいっぱい、連携も図っている。 ケア会議に参加し勉強させてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時や解約時に利用者やご家族様に十分に説明し理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が窓口となり、その都度対応している。またホーム内には意見箱を設けるなど、家族様の意見には職員全員が傾聴する様に努めている。	ほとんどの家族は毎月来訪しており、職員とは馴染みの関係が築かれています。職員は、利用者の日常の様子を伝え、家族の気持ちを汲み取るように努めています。来訪が難しい家族には、生活状況表を送付して、暮らしぶりを伝えています。受診時や緊急時には必ず電話連絡をしています。行事などの写真を、利用者それぞれのアルバムをつくり居室に保管しています。	来訪が難しい家族等も、利用者の写真や様子を記載した事業所便りにより、事業所の運営状況や生活を知ることができ家族の意見を聞くきっかけにもなります。今年度の発行は1回となっており、前回の期待項目でもあることから、継続的な情報発信に取り組む事を期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との面談を行ったり、職員会議後の雑談や親睦会の中での会話などから、意見や提案を聞くように努めている。	法人代表も施設長も共に利用者の介護に当たっており、職員とも日常的に何でも話せる関係が築かれています。事業所では親睦会を持ち、コミュニケーションを図り、職員が意見や提案を言いやすい関係作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務環境の改善や、職員のやりがいなどの向上のため、職員とのコミュニケーション常に心掛けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には出来るだけ多く職員を参加させて勉強してもらい社内研修で発表してもらう。 社内研修は年数回程度。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	石狩グループホーム連絡会の勉強会、交流会に参加したり、地域ケア会議にも参加させてもらっている。また、実践者研修には出来るだけ交代で職員が参加し、他施設の職員との交流の場の一つとしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や利用者やご家族との面談の中で、困っている事や要望を聞き、ケアにつなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を築くために、どんな些細なことにも耳を傾け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人からの情報を基にカンファレンスを開き、必要としている支援見極めをし、サービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活することを基に、出来る事、出来ない事を見極めて自分がその立場だったら、どうしてもらいたいのか、を常に考え支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等との信頼関係を築くために、来訪の際や電話にて本人の近況を報告したり、受診・往診後Drから指示がある事については、必ずご家族へ報告するように努めている。 また終末ケア時は家族、Drとの調整役となり連絡を密にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの友人・知人からの手紙、電話などのやり取りが気軽に出来るように支援している。また、看取りの時は24時間どんなことにも対応し支援に努めている。	通い慣れた美容室へ出かけることが難しくなっても、事業所に馴染みの美容師が継続して訪問しています。買い物や馴染みの病院への受診、自宅訪問、墓参りなど職員が出来る限り支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活をともにする仲間として意識しあえるよう、生活リハビリやゲームをしたり、談笑の場をもうけたりと、一人一人が孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も管理者、居室担当が窓口になり、お見舞いに行ったり、その先のフォローをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向に配慮した個別ケアに努め、意向が伺えない方は、表情や動作をみきわめて支援する。	職員は利用者とは毎日接している事で食べ物の嗜好を理解し、出来るだけ意向に沿えるメニューを提案するなど、利用者の思いや自己決定を大切にするケアを心がけています。時には、家族も知らない利用者の新しい一面に気づく事も有ります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境などを家族の協力を得て把握し、ケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック、その日の気分や状態、体調を考慮し、日課の調整を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスのさいに更新の介護計画を話し合い作成している。また、家族への説明の時に意見を聞き、介護計画に反映している。	利用者ごとの担当職員がモニタリングを行い、介護支援専門員と共に介護計画の原案を検討しています。さらに本人、家族の意向に加えて、ユニット会議にて職員の情報や意見を出し合い協議して最終的な計画を作成しています。見直しは6ヵ月毎に行い、体調の変化などがあった場合は随時見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に記入し、職員間で情報を共有している。また、申し送りノートや申し送り表の活用、朝夕の申し送り時は常に情報交換に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いろんな情報をキャッチしサービスの多機能化に取り組んでいる。 (お墓参り、受診時の付き添い、買物、他)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、町内会の行事は進んで参加させてもらい楽しんでいる。町内会の子供盆踊りに参加し車椅子でも踊りの輪に入れてもらって楽しみ、いつも最後まで参加。他、防災訓練、春秋クリーン作戦や花壇作りなど参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人、家族などの希望を大切に主治医の継続や変更などの個別の対応をしている。また、診察の同行、情報提供に努め関係作りを行っている。	医療連携体制が整備され、月1回の協力医の往診と週2回来訪の訪問看護師により、健康管理に努めています。歯科、皮膚科も希望に応じて訪問診療を受けています。かかりつけ医や他の専門医への受診は職員が支援し、適切に対応しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週2回定期来設の他、必要時24時間の連携で、意見やアドバイスを頂いている。また終末ケア時には、医師と連携し毎日来設してもらう時もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の紹介による緊急時の入院先との連絡、情報を行っている。また、入退院時の説明時には同席し、その後の健康管理につなげている。入院時、退院時には必ず付き添う。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化した時についてホームのあり方を説明し理解してもらう。また、早い段階で家族との話し合いを持ちながら主治医とも相談して方向を定める。三者で十分に話し合う。	重度化や看取りに関する指針を整備し、利用者、家族に説明を行い、同意書を得ています。開設時より多くの看取りを経験しています。法人代表や施設長は事業所が終の棲家と心得ており、利用者、家族の思いに添う支援に努めています。主治医と看護師も24時間対応で協力体制が生まれ、法人代表、施設長、職員と共に一体となったチームケアが行われています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社会福祉施設等防火救命実務研修会に参加し、救命救急の研修を受けたり、勉強会を行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を消防署の指示のもとで行っている。町内の方の協力をいただき、誘導等もやっていただいている。町内会合同の避難訓練にも参加させてもらいました。	火災訓練は消防署指導のもと、昼・夜を想定して年2回実施しています。緊急連絡網には地域住民も加わり協力体制が築かれています。職員は、町内会合同の避難訓練に参加しています。緊急時持ち出し品の中には、各利用者の薬の処方箋も用意しています。	近年、想定外の自然災害が多発しています。現在事業所では介護度の高い利用者も多いため、様々な状況を想定し確実な避難誘導が出来るよう対応策を立案する事が望まれます。シュミレーションや自主訓練に取り組む事を期待します。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりが人生の大先輩であることから一人一人の人格を尊重しケアする様に心掛け支援に努めている。	職員は常に一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けを行っています。名前は名字に「さん」付けで対応しています。特に、男性利用者の誇りを損ねないように、洋式便器でも希望に応じて立位対応で支援しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に自分らしく暮らしていけるよう押しつけのケアはしない。また、重度になっていく利用者の方については表情、動きをよく見極め支援に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ケアの押しつけはせず、その日の一人一人の体調や精神面を把握し、その日をどのように過ごしていたかかを相談し支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人主体ではあるが、季節感や外気温などに注意し、同じものにならないようさりげない支援を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割として、食事の準備、後片付け、食器拭き、収納をお願いしてその人の日課として職員と一緒にやっている。	調理専門職員を配置しています。献立は、彩や季節感、栄養のバランスを考慮しています。嚥下能力に合わせた食事形態の工夫をしています。誕生日には利用者の希望の献立で、ケーキも用意して祝っています。外食も取り入れて、変化のある食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量、水分量を職員全体で把握し、気になる人は、チェック表に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、口腔ケアを必ず行える様に支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	紙パンツ使用の方も定期的にトイレ誘導したり、出来るだけトイレでの排泄を促し支援している。	トイレでの排泄を基本とし、排泄リズムや排泄状況を把握しながら、時間誘導や声掛け誘導を行っています。利用者それぞれに応じてポータブルトイレを居室に用意しています。パッドやリハビリパンツの導入も、時間帯や本人の状態により段階を踏んで検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫(せんいの多いもの)、朝の水分、乳製品、運動と出来るだけの支援を心掛けている。 ※Dr指示にて下剤を使用する事もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	体調や希望に配慮し、出来るだけゆったりした気分で入浴していただけるように支援している。(曜日は設定している) 又、終末ケアの方には、曜日は関係なく、体調を見て入浴してもらっている。	入浴日は決まっていますが、週2回以上を目安に支援しています。利用者の重度化に伴い、二人介助で対応し安心感に配慮しています。体調や気分が沿わない時は、清拭で衛生保持に努めています。拒む利用者には、話すタイミングや職員を替えて対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度などに常に注意したり、寝具の調整をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容は職員全員が把握できるようにケース記録に綴じ、自由に見る事が出来る。また薬の変更時には、必ず連絡帳に記入し確認してもらう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技、生活歴、仕事、趣味、嗜好に配慮し日々の生活の中に生かしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的に外出に取り組んでいる。季節感のある行事(さくらんぼ狩り、イチゴ狩り、ぶどう狩り、紅葉を楽しむながらドライブなど)をおこなっている。(買い物、お墓参り、食事など)	事業所は、年間を通し季節に応じた外出行事を多く企画しています。特に、毎年恒例の一泊温泉旅行は、利用者、家族の楽しみとなっています。職員は、歩行困難な利用者も車いすを利用して、五感刺激や気分転換を図る機会として積極的に外出支援に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はほとんどいないが、買物の際は、自分で支払う事を楽しんでもらう工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話を利用してもらい、家族や知人等への連絡は、いつでも取れる体制を整えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体はほとんどがバリアフリーであり、生活範囲内は手すりを設置してあり移動しやすくなっている。また、「我が家から見える夕日は最高です」その他、入居者の作品や職員が写した写真を貼ったりしている。	男子寮を改造した事業所ですが、バリアフリー環境を充実させ、利用者が暮らしやすい工夫をしています。階段の昇降機の設置や風呂、トイレ、廊下には手すりを設置して、安全確保に努めています。各ユニットのリビングは日当たりも良く、季節の飾りつけや観葉植物を配置して、明るさと潤いを感じさせながら、快適に過ごせる様に配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子、テーブルを多く配置し、個々、好きなところで過ごせるよう配慮している。サンルームは自由に利用できるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を飾ったり、好きなポスターを貼られたり、好きな物を置いたり工夫している。	居室には衣替えの衣類や雑貨などを整理し易いようロッカーと上置棚が設置されています。利用者は整理筆筒やソファ、テレビなどを持ち込み自分らしい居室を整えています。壁には、風景写真や手作りのちぎり絵、習字の作品など飾り、家族写真も添えて安らげる空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内での移動はしやすく工夫しており、一人一人を見守りその人らしい生活を送ってもらっている。		